INAHO FARM 通信　2024 年 9 月

昨年 8 月の台風に伴う大災害を思い返しながら、平穏な日々の有難みを感じつつ、あっという間に過ぎていった一ヵ月でした。牛たちも暑い中でも元気に過ごしてくれています。一方で人間は外仕事となるとすぐにバテバテ。製造販売事務に追われる日々を過ごしているからか、「こんなに体力無かったっけ？牛の方がよっぽど体力あるなあ」と情けない気持ちにもなります。台風にも暑さにも負けず、沖縄の気候に年々適応してきているように感じる牛たち。本当に逞しいです。

また夏休み期間ということもあり 8 月はたくさんのお客にご来場いただき、牛との触れ合いを楽しんでいただけました。人に慣れっこな牛たちは、時にクッション代わりとなり子供たちを座らせてくれ、癒し効果抜群。ミルクや肉といった食だけでない牛の存在価値も存分に発揮してくれました。私たちも毎朝牛に癒されて「ありがとう」の気持ちを伝えながら搾乳と給餌を行っています。

＜2024/9/1 現在の飼養頭数＞

〇ジャージー種 12 頭：
搾乳牛 5 頭（アイナ、アユ、アコ、リンリン、エマ）
乾乳牛 1 頭（チッチ）
育成牛 5 頭（デイゴ※9/23 分娩予定、シュギモー、伊予、ウィッシュ、ベル）
雄子牛 1 頭（大福）

〇交雑種（ジャージー種×黒毛和種）3 頭：
（ワトソン、ココア、ホセ）

・9 か月齢の雄仔牛パンとハッチを出荷しました。

8/13 に昨年 11 月生まれの交雑種(ジャージー牛と黒毛和種の交配種)、パンとハッチを出荷しました。新規開拓した森放牧地の初代開拓牛として頑張ってくれました。2 頭とも草をしっかり食べて育ったので立派な第一胃の割に、体はこれまでの牛と比べても小柄でお肉の量も少なかったのですが、仔牛ならではの柔らかさと甘味のあるとても美味しいお肉です。もしかしたら少しオンラインストアの方でも販売するかもしれません。そして 9 月 4～10 日に出店する日本橋三越本店では、このお肉を使ったジューシーも販売予定しております。

INAHO FARM 通信　2024 年 9 月

・放牧地に塩を設置しました！

8/26 放牧地に、鉱塩という固形塩を設置しました。昨年も夏場には置いていたのですが、うちは牛舎がないのでどうしても雨に打たれて塩が溶け出してしまいロスが多くなってしまいます。そして牛が狂ったように舐めまくるのでとても消費が早く、小さくなってくると飴のように口に含んで舐めてはすぐに箱の外に落としてしまい、また溶け出すといったことの繰り返しでした。鉱塩もそんなに安いわけではないので。そんな経験もあり、今年は「塩は本当に必要なのか」という検証も含めこれまで給与していませんでしたが、8 月に入り暑さのせいなのか全体的にかなり乳量が落ちてきたので、これはもしや塩分不足かと思い、このタイミングで設置してみました。設置して 2 日後には塩受け箱が見事に破壊され、すぐに取り付け直したものの、こんな修繕が続くのかと思うと嫌になります。何かもっと良い方法は無いだろうかと毎日考えています。

その前にまずは、塩の給与で乳量への影響が見られるのかどうかの確認です。一つ一つ、「一般的にはこうするものだから」ではなく、なぜそうする必要があるのか理屈を理解した上で、本当に必要なのかどうかを考え、実践を通して判断していくことを大切にしています。そうでなければ、本当の技術は身に付かないと思います。常識を疑うからこそできた沖縄での通年放牧酪農・グラスフェッド飼育です。

・搾乳時の衛生管理への考え方

搾乳手順というのは、基本的なものはあっても酪農家によってみんな少しずつ違うと言われます。その中でも INAHO FARM に特徴的と思われるポイントとしては、「殺菌」への考え方です。

搾乳という人の手が加わる作業は、乳頭口からの汚染や乳頭を傷めるなどといったリスクが高まるため、非常に神経を使います。そのため少しでも衛生的に搾乳をするというのが大切で、一般的には殺菌液に浸したタオルで乳頭清拭をし、搾乳後にはディッピングといって乳頭全体を殺菌液に浸してばい菌の侵入を防ぎます。しかしうちでは、乳頭の衛生管理において「殺菌」をしていません。搾乳前に乳頭清拭するお湯にも、搾乳後に噴霧するスプレーにも「ＥＭ菌」を使用しています。ＥＭ菌というのは、有用微生物群(Effective Micro-organisms)のことで、自然界に存在する善玉菌といわれる微生物の集まりです。コロナ禍を思い返してもこの世の中は、人にとって有害な菌と聞くとすぐに「殺菌」をしようとします。基本的に殺菌は、悪い菌だけでなく、良い菌も含めて殺してしまおうという考え方です。しかし自然界においてその約 8 割を占めているのは、善玉菌

でも悪玉菌でもないどっちつかずの日和見菌。これは善玉菌と悪玉菌の数的優位な方に味方すると言われています。そのため、ＥＭ菌を使用することで良い菌を優位にして衛生的に乳頭を管理しようというのが我々の考え方です。この管理方法で、乳房炎にも基本的にはかかりません。むしろ殺菌してしまうことで、そこにばい菌が付着した際にそれに打ち勝つ良い菌が無いことの方が、結果的に病気のリスクが高まると思っています。これは人間の食べるものや腸内細菌への考え方にも共通することだと思います。

・土壌改善の成果が出てきています

→

2022 年 5 月　　2024 年 8 月

牧場整備の一つとして、水はけが悪い場所の土壌改善を行っています。放牧地内外、沖縄ならではの粘土質の土というともあり、固い土壌だらけです。これでは草もしっかり根が張れず、増やしたい草もなかなか思うように増えてはくれません。そこで 2 年前から少しずつですが進めている土壌改善方法があります。スコップで地面に 60cmほどの竪穴を掘り、そこに枯葉や炭・朽ちた木枝などを詰め込み、再び土を被せて埋めるというものです。これにより今まで水が浸透していなかった地中に水が通るようになり、埋めた草木は時間をかけて微生物により分解され、菌糸が生え、呼吸ができる健全な土壌環境に持っていこうとする方法です。上の写真は、現在哺乳をしている仔牛のパドックの様子ですが、2 年前このフェンスの中には、見ての通りほとんど草は生えておらず、雨が降ると足がはまって長靴が抜けてしまうほどの泥濘地。水はけは最悪で数日晴れでも簡単には乾きませんでした。パドックはコンクリートで舗装された道に沿ってあり、これにより土中の水の流れが寸断されていたことも大きな要因ではないかと考えられました。しかし、上記で述べた竪穴を 10 か所近く掘り対策を講じてみたところ、泥濘防止の効果は想像以上にすぐ現れ、脚がはまるようなことは無くなりました。それから 2 年が過ぎ、今は見ての通り泥濘が消えただけでなく、とても密度高く青々とした草が密生するまでになりました。芝も増えてきました。土中環境が整ってきていることを実感します。草地の管理は、こうして時間をかけて結果として現れることが多く、それが目に見えてわかるようになるまでの時間もまた、自然界の営みを感じるとともになんだか愛おしく感じます。

INAHO FARM 通信　2024 年 9 月

・9/22（日）に初めて OPEN FARM DAY を開催します！

9 月三連休の中日、9/22（日）は、初めて OPEN FARM DAY として牧場で自社イベントの開催を計画しています。通常は予約制としているジャージー牛との触れ合い体験も、予約無しで多くの方に参加いただける機会を作ろうと思います。ただ通常業務だけで手一杯の中で、あまり手の込んだイベントにはできそうにありませんが、普段は販売していない特別商品の販売なども予定していますので、ぜひ奮ってご参加ください。詳細は改めて発表させていただきます。

（文・佐藤貴之）